

様々な更年期障害に対しての漢方療法の症例

近藤クリニック(東京都) 近藤 亜未

更年期障害患者は身体的、精神的な多種多様な症状を有しており、日常生活に支障を来していることから適切な治療が求められる。一つの症状が改善しても他の症状が出現する3症例に対し、漢方療法を駆使することで改善を認めた症例を経験した。更年期障害の治療において漢方療法を提案することも治療選択肢の一つとして重要であることを、症例の治療経過をとおして考察する。

Keywords 更年期障害、漢方療法、分2処方

緒言

更年期とは、生殖期(性成熟期)と非生殖期(老年期)の間の移行期のことで、卵巣機能が減退し始め消失するまでの時期で、一般的には閉経前後5年の合計10年間のことをいう^{1, 2)}。

この時期に、のぼせ・ほてり(ホットフラッシュ)・めまい・頭痛・倦怠感・不眠などの身体的な症状や、気分の落ち込み・やる気が出ない・不安・憂鬱などといった精神的な症状がみられ、検査を行っても特に異常がないものを更年期症状といい、日常生活に支障を来す状態を更年期障害という^{1, 2)}。

更年期障害は、一つの症状が出てしばらく持続する場合もあるが、今回は一つの症状が出現し、改善しては他の症状が出現するという症例に対し、試行錯誤しながら漢方療法にて改善が認められた症例を報告する。

症例1 48歳

【主 訴】 動悸・ホットフラッシュ

【既往歴】 特記すべきことなし。G3P2、身長162cm、体重52kg、血圧124/77mmHg

【現病歴】 更年期症状を主訴に他院受診しHRT開始となったが、2週間経過した時点で胸痛が出現したため一旦中止となり、漢方療法希望のため当院受診。

【経 過】 受診時、動悸を中心とした更年期症状を訴えており、心疾患等内科的疾患を否定し、クラシエ加味逍遙散 6g/日・分2を開始。その後徐々に落ち着いてきたが、肩こり・冷え・倦怠感の症状が強くなってきたため、クラシエ当帰四逆加呉茱萸生姜湯 7.5g/日・分2、クラシエ補中益気湯 7.5g/日・分2へ変更した。1ヵ月内服し冷えは

改善したが、寝つきが悪く、倦怠感は持続していたため、本人と相談しクラシエ補中益気湯を継続し、クラシエ加味帰脾湯 7.5g/日・分2を開始した。内服2週間後には徐々に調子よくなり、現在は加味帰脾湯のみ継続している(図1)。

症例2 53歳

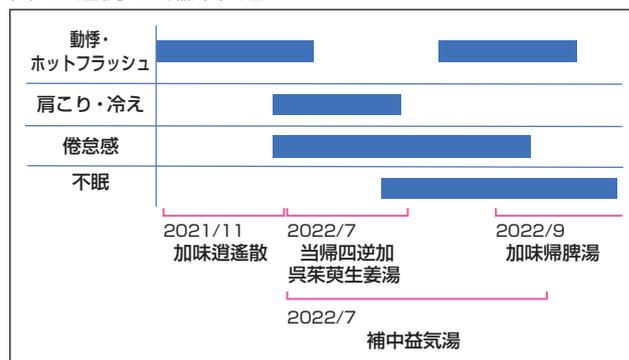
【主 訴】 ホットフラッシュ

【既往歴】 特記すべきことなし。身長167cm、体重63kg

【現病歴】 上記主訴にてHRT希望にて当院受診。

【経 過】 ホットフラッシュを主症状とした更年期症状に対し、HRTを開始し症状は落ち着いていたが、足の先と臀部の冷え、不眠が出現し仕事に支障を来すようになった。漢方薬が苦手なため、まず冷えを優先しクラシエ当帰四逆加呉茱萸生姜湯 7.5g/日・分2の内服を開始した。1ヵ月後には冷えは改善傾向であり6ヵ月継続した。その後、冷えは落ち着いたが、入眠困難、中途覚醒が出現してきたため、体質・体格を考慮しクラシエ柴胡加竜骨牡蛎湯 6g/日・分2に変更した。1ヵ月内服後睡眠改善を自覚し現在も内服を継続している(図2)。

図1 症例1 臨床経過



症例3 52歳

【主 訴】 イライラ・不安感

【既往歴】 特記すべきことなし。G5P3、身長161.5cm、体重70kg

【現病歴】 上記症状を訴え相談にて受診。簡略更年期指数 (SMI) (表) 62点であり本人と相談しクラシエ加味逍遙散 6g/日・分2を開始した。

【経 過】 加味逍遙散を2ヵ月内服し、イライラは改善傾向であったが、疲れが取れず、眠りも浅い等の症状を訴えるようになり、クラシエ加味逍遙散からクラシエ加味帰脾湯 7.5g/日・分2へ変更し、倦怠感も強かったためクラシエ補中益気湯 7.5g/日・分2を追加した。2ヵ月内服し、

図2 症例2 臨床経過

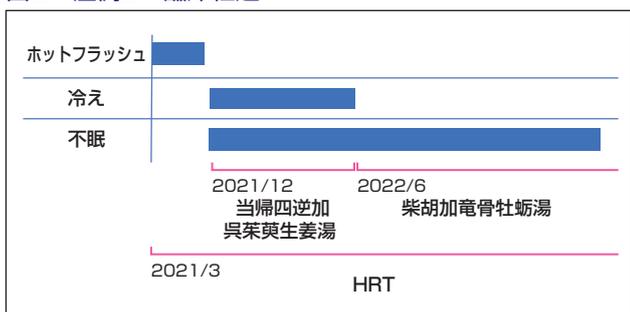


表 簡略更年期指数 (SMI)

症状	強	中	弱	なし
① 顔がほてる	10	6	3	0
② 汗をかきやすい	10	6	3	0
③ 腰や手足が冷えやすい	14	9	5	0
④ 息切れ、動悸がする	12	8	4	0
⑤ 寝つきが悪い、眠りが浅い	14	9	5	0
⑥ 怒りやすく、すぐイライラする	12	8	4	0
⑦ くよくよしたり、憂鬱になることがある	7	5	3	0
⑧ 頭痛、めまい、吐き気がよくある	7	5	3	0
⑨ 疲れやすい	7	4	2	0
⑩ 肩こり、腰痛、手足の痛みがある	7	5	3	0

評価法

- 0-25点: これまでの生活を続けましょう。
- 26-50点: 食事・運動などに注意を払い、生活様式なども無理をしないようにしましょう。
- 51-65点: 医師の診察を受け、生活指導、カウンセリング、薬物療法を受けた方がよいでしょう。
- 66-80点: 長期間 (半年以上) の計画的な治療が必要でしょう。
- 81-100点: 精密検査を受け、更年期障害の場合は長期的な計画的な対応が必要でしょう。

SMI 48点と改善し、自覚症状も安定してきており加味帰脾湯・補中益気湯の内服を継続している (図3)。

考 察

症例1では、不眠が出現し加味逍遙散から加味帰脾湯に変更したことで不眠の改善につながった。

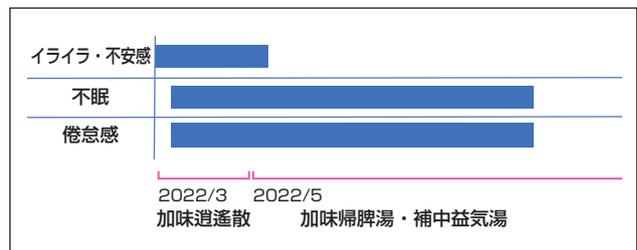
症例2では、HRTを施行していても緩和できない症状 (冷え・不眠) に対し、漢方の内服を併用することで日常生活に支障を来すことなく生活できるようになった症例である。

症例3は、SMIを使用し評価することで視覚的に治療効果を確認できた。

症例1、症例2、症例3ともに薬剤に起因する副作用は認めなかった。

更年期症状は人それぞれ多種多様な症状が出現し、日常生活に支障を来し困惑している女性が多いことを実感した。他人になかなか相談できないこと、相談できたとしても理解してもらえないことも多いため、一人で悩んでいる女性も多い。漢方を内服することで症状が軽減できQOLの向上につながるため、漢方を内服することを提案することも重要である。また、仕事を有する女性や子育て中の女性も多く、朝夕の分2の内服処方することで飲み忘れを防ぎ、1日量を十分内服できていることも症状改善につながったと思われる。

図3 症例3 臨床経過



【参考文献】

- 1) 日本産科婦人科学会: 産婦人科診療ガイドライン 婦人科外来編 2020; 180-191
- 2) 日本産科婦人科学会: 産科婦人科用語集・用語解説集 改訂第3版, 2013; 181 (Ⅲ)